

【概要版】境港市小中学校再編計画（素案）

1. 計画策定の趣旨（素案P1）

平成29年10月に境港市校区審議会から「小中一貫校を開設することが望ましい。」、「義務教育学校について検討することが望ましい。」との答申を受け、学校再編に向けて、令和5年5月に庁内の関係課で、境港市小中学校再編ワーキングチームを設置し、本市で育つ子どもたちにとって、より良い学びの環境を整えるため、学校再編により生じる課題の整理等のソフト面、施設・跡地利用等のハード面について、検討を進めました。

令和5年度に自治会を対象に「境港市小中学校の未来の姿について一緒に考える座談会」を開催し、また、令和6年度には教職員、保護者、児童生徒を対象にアンケート調査を行い、様々な立場での学校再編についての考えを伺いました。

今年度、先進地視察として、5月20日と21日の2日間で、東京都の八王子市（いずみの森義務教育学校と学びの多様化学校である高尾山学園）と三鷹市（分離型の小中一貫校）を訪問しました。また、9月30日には、広島県福山市の義務教育学校の想青学園を訪問し、義務教育学校のメリット・デメリットなど、学校再編に向けて参考となる意見を伺うことができました。

これまで取り組んできたことから、本市において、誰一人取り残さない教育の実現と個別最適な学びの充実を図る教育の変革期に応じて、教育委員会として、学校再編計画策定に向けて、素案を作成しました。

今回作成した学校再編計画の素案をもとに、市民の皆様と多くの議論を交わし、子どもたちの学びや成長を第一に考えた学校づくりを目指し、今後、再編計画をまとめてまいります。

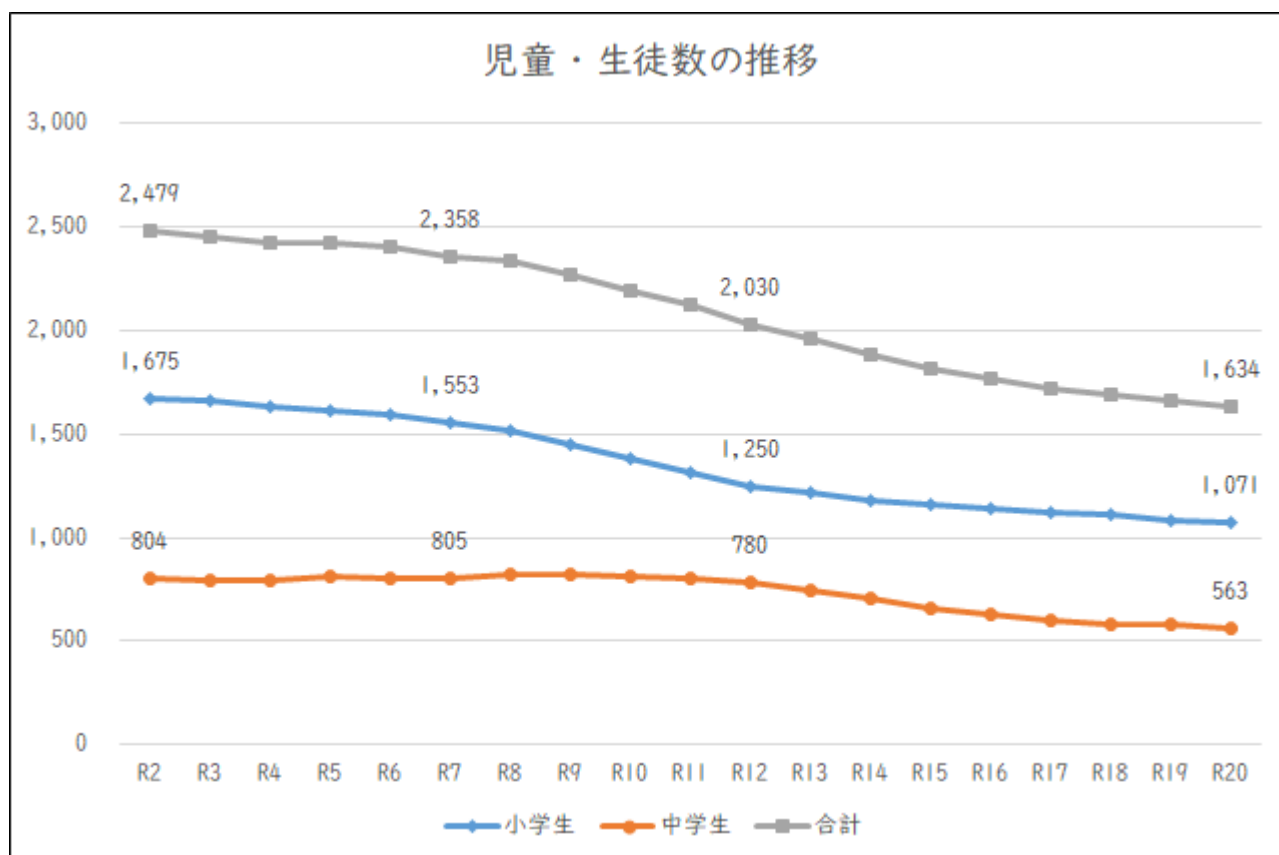
2. 小中学校の現状（素案P2～4）

【児童・生徒数】

本市の児童・生徒数は、令和7年度では、2,358人（小学生1,553人、中学生805人）で、5年前の令和2年度と比較すると、△121人（小学生△122人、中学生1人）となっており、年々減少が進んでいます。

新しい学校始動期にあたる令和20年度では、令和7年度と比較して、△724人

（小学生△482人、中学生△242人）となり、現在の学校数（小学校6校、中学校3校）で単純に割ると、小学校は1校あたり約179人、中学校は1校あたり188人となり、小学校は各学年1クラス、中学校は各学年2クラスとなり、小学校ではクラス替えが難しい状況となっていくことが予想されます。



※令和8年度以降は、推計値

【学校数】

本市は、昭和50年頃からの人口増加傾向を受け、昭和58年4月に誠道小学校を、昭和60年4月に第三中学校を開校し、市内で7小学校、3中学校体制となりました。しかし、平成17年以降、人口減少幅が大きくなり、特に誠道地区では児童数が大きく減少し、将来大きな増加が見込めないことから、境港市校区審議会の答申を受け、令和2年3月をもって誠道小学校を閉校とし、現在の6小学校、3中学校の体制となっています。

3. 学校再編の意向（素案P5～19）

（1）自治会との意見交換会

- 令和6年2月19日（月）19:45～ 中浜公民館（参加者：9人）
- 令和6年2月21日（水）19:30～ 余子公民館（参加者：7人）
- 令和6年2月26日（月）19:30～ 誠道公民館（参加者：8人）
- 令和6年2月27日（火）17:00～ 上道公民館（参加者：9人）
- 令和6年2月28日（水）15:30～ 境公民館（参加者：7人）
- 令和6年3月5日（火）19:30～ 外江公民館（参加者：8人）
- 令和6年3月9日（土）19:00～ 渡公民館（参加者：17人）

（2）教職員との意見交換会

- ・令和6年11月21日（木）15:00～16:30 第三中学校
 - ・令和6年12月10日（火）15:00～16:30 第二中学校
 - ・令和6年12月25日（水）10:00～11:30 第一中学校
- ※終了後、アンケート調査を実施

（3）「未来の学校」アンケート

小学校5年生、6年生、中学生を対象にアンケートを実施。

（4）学校再編に係る保護者との意見交換会

小中学生の保護者の方と一緒に考える場を設定。

- ・令和7年2月6日（木）19:00～20:00 第一中学校
 - ・令和7年2月7日（金）19:00～20:00 第二中学校
 - ・令和7年2月10日（月）19:00～20:00 第三中学校
- ※終了後、アンケート調査を実施

■アンケート結果

	教職員 (熟議参加者)	児童生徒 (小学5年生以上)	保護者 (意見交換会参加者)
対象者	158人	1,354人	29人
回答数	116人	897人	7人
回答率	73.4%	66.2%	24.1%

（５）先進地視察

本市が検討している義務教育学校や小中一貫校の取り組みを行っている「先進地」を訪れ、成功要因や課題、具体的な取り組みを学ぶことができました。

■第１回先進地視察

日 程：令和７年５月２０～２１日

視察先：東京都八王子市 いずみの森義務教育学校

高尾山学園（学びの多様化学校）

三鷹市 三鷹市教育委員会（小中一貫校（分離型）について）

八王子市・三鷹市 施設・取り組み等の感想

安全な複合施設

学校・地域・保育園 それぞれの施設利用の動線も重ならない
図書館・プールも地域に開放



・地域に必要な誰もが使える施設

異学年交流

体育祭の準備をする中、明らかに違う学年の生徒同士が話す姿
校門付近で違う学年と思われるグループで談笑している様子



・異学年同士の子どもたちが、自然に関わる姿があり、子どもらしい社会性が育っている

20年を掛けて作り上げた仕組み

学校内にいつでも誰でも利用できる居場所
一人一人のレベルや習熟度に合わせたコース別授業
集团的・体験的な学習や活動の機会を多く取り入れる
コミュニケーションスキルを育成できる体制整備



・最も適した時期に適切な支援
・学校での体験を通して「生きる力」を身につけ社会に巣立つ

コミュニティ・スクールの先、スクールコミュニティ

学校や子どもたちをきっかけにできるコミュニティ
ユニークな取り組み 「焚火の会」



・CSは境港市も負けていない
・学校運営協議会委員は学校運営の当事者として関わる

■第２回先進地視察

日 程：令和７年９月３０日

視察先：広島県福山市 想青学園（義務教育学校）

想青学園 施設・取り組み等の感想

新教科「SOSEI学」

・校区の歴史・文化、産業、自然等を素材に、児童生徒の発見や疑問に応じ、柔軟に展開する探究学習



・ふるさと学習を取り入れ、児童生徒自身が地域探求・地域創生に取り組んでいる

つながりとふれあいの生活空間

・普通教室から移動できるロッカー等を配置した「クラスブース」を併設し、いつでも子どもたちの居場所となる空間づくり



・教室の後ろに小さな部屋があり、授業中や様々な場面で、児童生徒が落ち着きを取り戻せる場所として活用

地域の人々との共創空間

・ふれあいルームやランチルームなど、地域との関わりの場の提供



・ランチルームが調理室に隣接してあることで、地域の方とのふれ合いの場となっている

4. 児童生徒数の将来推計（素案P19～20）

令和20年度までの各小中学校の児童生徒数の将来推計を記載

5. 学校再編スケジュール（令和7年度以降）（素案P21）

年 度	検 討 内 容
令和7年度 (2025年度)	先進地視察
	今までに出た意見の集約
	素案の策定
再編素案策定期	市民熟議
令和8年度 (2026年度)	有識者による策定機関（学校再編計画策定委員会（仮称））立ち上げ
	委員会での検討会議（年3回）
	パブリックコメント
諮問機関検討期	市民熟議
令和9年度 (2027年度)	境港市校区審議会への諮問・答申
	境港市学校再編計画 策定
	議会報告
再編計画策定期	市民への周知
令和10年度～ (2028年度～)	建設計画
	複合型施設の検討（児童クラブ、保幼子育て支援など）
	教育課程の編成、ソフト面の検討
建設計画策定期	用地買収
令和16年度～ (2034年度～)	基本設計
	実施設計
	建設
新しい学校建設期	
令和20年度～ (2038年度～)	教育課程の決定
	通学バスの運用
	管理職配置検討
新しい学校始動期	

6. 学校再編計画（素案 P 22～25）

「3. 学校再編の意向」から、学校再編にあたっては、以下の事項を念頭に置いて、検討を進める必要があると考えます。

- ・市の目指すべき方向性を明確にする。
- ・統合する場合は、児童生徒の通学手段（スクールバス等）を検討する。
- ・今後の学校整備にかかる予算の推移
- ・地域とつながる学校
- ・多様な児童生徒への支援

「2. 小中学校の現状」や「4. 児童生徒数の将来推計」から令和20年には、市内の全ての小学校で各学年1クラスとなることが予想され、クラス替えが困難となり人間関係の固定化が懸念されます。世界とつながるグローバル社会の中で、自己肯定感を持ち生き抜いていくことや、感受性の豊かな学童期から青年期までに多様な価値観に触れ、自分の考え方や表現する力を身に着けていくことは、子どもたちに今後強く求められる姿でもあります。本市では、生まれ育った郷土を愛し、自らの幸福感（ウェルビーイング）を実現していくための学校づくりを、地域とともに展開してきました。開かれた教育課程を実現し、地域とともにある学校づくりは、子どもたちの生活学習環境に安心と安全を提供し、地域の活力にもなってきました。

学校再編については、その強みを生かしながら更なる地域とのより良い関係を構築し、社会の変化に応じた初期再編構想を令和5年度に4つ

- ①分離型小中一貫校の継続
- ②3つの中学校区の一体型小中一貫校又は義務教育学校
- ③2つの中学校区（南北）の一体型義務教育学校
- ④小学校6校、中学校1校の分離型小中一貫校

を示し、検討を進めてきました。その後、地域や関係する者から意見を聞き、先進地の視察等を行い、本市の子どもたちの成長に適した学校の形を模索する中で、絞り込んだ素案として、次の2つの案を提示します。

《案１》

新たに３つの義務教育学校をつくる

児童生徒数	550～600人／校（令和20年推計より） ※１学年あたり61～67人 ⇒ ２～３学級
校 区	現在の中学校区
場 所	一中校区⇒未定、二中校区⇒二中（増設）、三中校区⇒三中（増設）
課 題	（１）通学手段 ⇒ スクールバスの導入 （２）第一中学校の場所 ⇒ 新用地の買収

《案２》

新たに２つの義務教育学校をつくる

児童生徒数	800～850人／校（令和20年推計より） ※１学年あたり89～95人 ⇒ ３～４学級
校 区	未定
場 所	１つは未定、１つは二中（増設）
課 題	（１）通学手段 ⇒ スクールバスの導入 （２）校区 ⇒ 校区割をどうするのか検討

いずれの案も「義務教育学校」を選んだのは、

- （１）中国地方の都市の中で、最も小さい市であること
- （２）山や谷、川など地域の交流を妨げる可能性を帯びた自然環境が少ない環境にあること
- （３）培ってきたコミュニティ・スクールでの取り組みを基盤とし、異学年との交流や地域とのかかわりを重視したこと
- （４）中一ギャップの解消で子どもたちにとって心理的安全性の確保ができること
- （５）教職員にとっては、教育課程の整合性をより高められ、９年間の一貫した教育の推進ができること

などのメリットが考えられるからです。

また、学校としての機能以外にも、地域住民のコミュニティ（広場）としての役割、市役所相談業務の分室化、高齢者世帯への食の提供など、今までにはない多目的な行政サービスへの可能性を帯びた「地域とともにある学校」の導入こそが、未来の境港市にとって、魅力ある教育の実現につながると考えているからです。

なお、引き続き、本市の今後の人口の変動を注視し、令和10年度以降に予定している建設計画を策定する際には、そのときの児童・生徒数の将来推計から再編の形が変更する場合があります。